

建設水道委員会

【委員長】高橋正典 【副委員長】佐野智昭
 【委員】影山正直、小池義治、井上保、望月昇、石橋広明、小野由美子
 当初予算6件、補正予算1件、条例1件、その他4件

●西富士道路新IC設置の可能性は

問 西富士道路新IC設置可能性検討を実施するとのことですが、事業の目的と設置する場合の主体はどこになりますか。

答 西富士道路の一部区間で慢性的に渋滞が発生していることや、この道路に出入りできる箇所が限られており、利便性が損なわれていることから、渋滞の解消と利便性の向上を主な目的に設置可能性を検討します。また、事業主体については、連絡調整会議の中に設置する、県、富士宮市と本市で構成する推進部会で、今後協議していきます。

●地域おでかけバスの実証運行とは

問 地域おでかけバスの実証運行を行うとのことですが、どのような内容ですか。

答 現在、路線バスやコミュニティバス、デマンドタクシーの運行などにより、公共交通空白地域が人口ベースで8割以上解消されていますが、地域おでかけバスは、いまだスポット的に空白地域として残り、公共交通の需要もあまり高くない地域を対象に、地区の公会堂などと直接商業施設をつなぐ、福祉の視点を加えた運行を行うものです。新年度は市が主体となって実施しますが、将来的には地区の互助、共助の体制で運行ができるような仕組みへの移行も考えています。

●本市場大淵線（伝法工区）の令和2年度中の供用開始は

問 県が施工している本市場大淵線（伝法工区）は令和2年度中に供用開始できますか。

答 工事としては2年度末までに供用開始可能と聞いています。しかし、信号機の設置について地元住民との調整がついていません。現在、地元住民が6基から4基に変更した要望書を改めて県警に提出し、受理されていますが、まだ具体的な設置個所が決まっていないため、供用開始が見通せない状態だと聞いています。

●市街化調整区域の市街化区域への編入の考えは

問 国土利用計画（富士市計画）を改定することですが、今後、大型複合商業施設等の建設計画が持ち上がった際、市街化区域内に建設用地が確保できない場合を考慮し、市街化調整区域の市街化区域への編入について、この計画に盛り込む考えはありますか。

答 当初、区域区分を行うに当たり、将来人口を28万人と推計しましたが、ピーク時の平成22年でも25万4000人余であり、今後も人口減少が予測されるため、原則として、市街化区域は拡大しない方針です。また、市街化区域への編入については、具体的な計画を具現化するための1つの手法として検討するものですが、現時点においてはそのような段階にある計画はないため、計画に盛り込むことは考えていません。

●事業未着手の都市計画公園をどうするか

問 都市計画公園見直しガイドラインの策定を検討することですが、事業着手に至っていない都市計画公園は幾つありますか。

答 都市計画公園は全部で72か所ありますが、そのうちの17か所が未着手となっています。

要望 未着手の公園については、今後の本市の人口動態や将来像を予測すると、真に必要なかどうか検証する必要があると考えるので、計画の廃止や縮小を含め、思い切った見直しを図ってください。



富士西公園（都市計画公園）

環境経済委員会

【委員長】鈴木幸司 【副委員長】下田良秀
 【委員】稲葉寿利、荻田丈仁、望月徹、小山忠之、笠井浩、萩野基行
 当初予算3件

●新たに整備する合葬式墓地の規模は

問 森林墓園内に新たに合葬式墓地を整備するための基本設計を行うとのことですが、どのくらいの規模を考えていますか。

答 約1750平方メートルの敷地に約5000体の遺骨を埋蔵できる墓地を想定しています。基本設計の業者選定は公募型プロポーザル方式で行うため、埋蔵数を含め、総合的に審査したいと考えています。

●食品ロス削減への意識を高めるために

問 食品廃棄物（食品ロス）削減事業を行うとのことですが、どのような内容ですか。

答 家庭向けには、食品廃棄物削減講座やエコ・クッキング講座を実施し、事業者向けには、小売店で行っているクイズラリー形式の啓発事業などに加え、食品ロスにつながる可能性が高い賞味・消費期限切れ間近の商品購入者に対しシールを交付し、景品の抽選に応募できる事業を新たに行い、食品ロス削減の意識向上につなげたいと考えています。

●ほうじ茶のブランド化推進の経緯は

問 国の地方創生推進交付金を活用し、ほうじ茶ブランド化推進事業を行うとのことですが、どのような経緯で実施に至りましたか。

答 本市の茶業は、高齢化、後継者不足に加え、収穫時期が遅く、新茶の価格が平均より低いなど、対策が急務とされる中、一部の茶農家からほうじ茶の加工を積極的に行いたいとの意向があったため、本事業の実施に至りました。事業化の根拠としては、ほうじ茶は飲料としての取扱量がここ10年間で3倍以上伸びている点や、菓子の材料として需要が見込める点、茶葉の収穫とほうじ茶の加工を同時に行いブランド化している産地が見られない点などから将来性を見込んだためです。

●今年度初めて開催されたFUJI & SUNの今後の展望は

問 FUJI & SUN' 20開催負担金を300万円計上していますが、本イベントについてどのような展望を持っていますか。

答 主催者が円滑に開催できるよう、会場である富士山こどもの国や市内報道機関との調整、企業とのマッチング等の支援を行っています。その結果、本市で永続的に行われることで、本イベントの開催地として全国にPRできると考えています。

要望 若者の参加が多く、新たな出会いの場として期待できるイベントなので、市民への周知や情報発信に努めてください。

●田子の浦港津波対策として行う第3波除堤機能強化の実施設計に向けた問題点への対処は

問 第3波除堤機能強化事業負担金を3100万円計上し、今年度実施の調査及び基本設計に基づき、実施設計を行うとのことですが、調査により明らかになった問題点はありますか。

答 波除堤の耐震診断などを行いましたが、一部で補強が必要と診断されたことから、強度を高めるための様々な工法を研究し、実施設計につなげたいと考えています。



機能強化に向けた実施設計を行う第3波除堤（○部分）